

●主な活動の記録 (4月～6月)

4月6日(日) 自主活動 矢田山遊びの森

8名参加。午前中二手に分かれ、「緑の募金」公募事業の一環である、まほろば展望台麓付近での竹の伐採、既に回を重ねているので下の方はほぼ境界近くまで作業が進んだ。一方矢田峠付近でプロにより伐倒された木々の玉切りが棚積みされているものを炭焼き用に利用すべく搬出。かなり太いものも多く軽トラックで3往復し、炭窯近くへ搬入。午後は、皆で炭焼きのための炭材・薪づくりを行った。

4月12日(土) 「緑の募金」街頭募金活動

(公財)奈良県緑化推進協会による、緑の羽根募金活動が、近鉄奈良駅前行基菩薩広場で実施されたが、生憎当クラブの定例活動日と重なったため5名のみ留めて、協力をお願いしていたこま里山クラブから5名の応援を頂き10名が参加。加えて例年通り新しく選ばれたばかりのミス奈良三名と、ガールスカウト、幼稚園児とで道行く人々にぼっちり昼まで協力を呼びかけた。時折応援に現れてくれる”せんとかん”、今回は本年当県で開催される”海づくり全国大会”のPRも兼ねての魚釣りの出で立ちで相変わらず人気度抜群。



ガールスカートの皆さん



ミス奈良と共に



ご機嫌せんとかん

4月12日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

初参加一名を含め26名が参加。午前中はFV連「緑の募金」公募事業で実施したモミジ谷での間伐材の搬出作業に参加する一方、残りは炭窯への炭材詰め込み作業。予め用意しておいた敷き木、上げ木をしっかりとかまして材を目一杯立てかけた。並行して炭窯下の水抜き路(地中に埋め込んだ竹筒)の一部付替えも行った。昼のお花見会は桜の広場で、女性を中心に朝から準備願ったカレーを味わいながらの花見。生憎ヤマザクラは殆ど終わりがかけていたが、丁度満開の八重桜を愛でつつ、しばし歓談。終わり近くになって、「緑の募金」活動に参加していたメンバーが駆け付け盛り上がった。午後、午前中の作業を引続き行い終了。

この後、定例理事会を開催。

- 1) 炭焼きの消防署への管理事務所経由、届出書提出の確認
- 2) (公財)全国緑化推進機構の助成事業への応募申請の状況
- 3) 事業担当者への役務手当の検討
- 4) 炭焼きスケジュールの確認並びに参加者の呼び掛け
- 5) 助成金実施報告書に関する事例報告
- 6) 県並びに緑推の人事異動、等の検討・報告を行った。



桜広場での花見風景



炭窯詰め



間伐材の搬入



4月16日(水) 自主活動 矢田山遊びの森

10名の参加で、炭窯最後の詰め込みを行った後、燃烧室づくりのレンガ積み及び、煙突の設置のための粘土をこね、それぞれの作業を終了し、焚口付近の整理・清掃をし、予定通り今月26日の火入れ式を行う準備を完了。

4月26日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

参加者26名。今日は朝一番に炭窯の火入れを行うため、朝会の場所を炭窯前に変更。火入れ式の先導役として志願された和巻氏の手で、安全祈願・清酒による清めの後、火入れが執り行なわれ、無事着火。火の番に数名が残り、他はFV連「緑の募金」公募事業での間伐材利活用の一環として過日運び込んでおいた材の皮むき、これを使ってのベンチづくりと植菌済みのホダ木の本伏せ用檜及び柵の補修用としてしいたけ銀行へ搬入。昼には、会員の弘田氏が持ち込んでくれた朝掘りタケノコをホイルに包んで炭焼きの熾きを使って丸焼きにし、切り分け塩をひと振りし皆で味わった。甘味が強まり非常に美味で、タケノコを焼いて食するのは初めての人が結構おり、彼らにとっては殊の外美味しかった模様。尚、炭焼きは本日から二昼夜連続で焚き続け、更に約一週間は日中に限り温度管理のため、それぞれ予め決めておいた2名ずつの当番がつくことになっている。



火入れ



皮むき



ベンチづくり



丸焼きタケノコ

4月29日(火) 緑化推進コンクール表彰式と苗木の配布 馬見丘陵公園

県緑化推進協会の主催により募集された、児童・生徒からの緑化推進のポスターと標語の入賞者に対する賞状の授与式が同公園中央大テント広場で行われた。この後、花の苗・種配りを実施。この準備等の手伝いのため当クラブ員13名が参加。生憎の降り続く雨のため、参加者は表彰者とその家族・関係者並びに数少ない雨中の散策者に限られていたが昼前に終了。表彰者はお祝いに駆けつけた”せんとくん”を挟んでの記念撮影では皆笑顔。



準備作業



賞状授与式



記念写真



花・種の配布

5月4日(日) 自主活動 矢田山遊びの森

30代の若手2名の初参加者を含む13名が参集。「緑の募金」公募事業である竹の除伐作業地である”まほろば展望台”麓まで徒歩約30分。到着後作業の内容・範囲を説明。ついで事業の趣旨を明記した看板持って全員で写真撮影後、散らばって作業を開始。初参加者には夫々指導者がついて作業要領・留意点を説明しながら竹を伐り、枝を払い、玉切りし棚積みを経験。午後も継続して作業する一方、作業地内にある4~5本の枯損木のチェンソーを使用しての除伐処理。新人にはこの処理の説明を受けながら、見学してもらった。

2時頃、子ども交流館に戻り、情報館でパワーポイントを使ってのクラブ活動を紹介し、二三質問を受けて終了。初参加者は、今回の体験を通じ興味をもってもらったようで、今後も引続いての参加が大いに期待出来る。



記念撮影



立寄るハイカー



枯損木処理

5月10日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

快晴のこの日、27名が参加。作業は、下記の通り多岐にわたった。

A. みんなの森植栽地(野鳥の森、万葉の森、体験の森等)にての夏場の下草刈りシーズンを控え、作業予定作成のため、3組に分かれ下見を実施。途中一部手鎌でアクセスの整備を行った。

B. FV連「緑の募金」公募事業である、間伐材の利活用作業に参加して、

1. モミジ谷からの間伐材の搬送
2. 皮むき
3. ベンチづくりのための部材の準備
4. 椎茸銀行の柵補修のための杭づくり

等を手分けして実施。

解散後、定例理事会を持ち、林野庁の進める助成事業である「森林・山林の多面的機能発揮対策」として、頂上展望台付近の竹の除伐で応募することとした。(後日、今年度の一次募集は既に締め切った由にて、来月の二次募集に備えることとした)

<炭焼き>先月26日から焚き始め、一度は焚口を閉めたものの、途中温度が下がり始めたので再度口を開け、焚き直したため、予定の日数を大幅にオーバーしたが、9日に予定の温度に達したため、窯閉めを行った。徹夜も含め多くのメンバーの協力に深謝。5月24日の定例活動時に窯出しを予定。



ベンチ用部材づくり



材の搬入



杭づくり

5月24日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

25名が参加。朝礼の際、過日メンバーの一人が活動中(場所は生駒山麓)マダニに咬まれ、医者に処置をしてもらった経緯の報告が注意喚起を込めてあった。幸いウイルスに感染していないものだったようで大事に至らなかったのが幸い。本日の活動は、炭の窯出しの他、FV連「緑の募金」公募事業である間伐材を使つてのベンチの組み立てとシイタケ銀行の柵の補修を手分けして実施。柵の補修は、新しい杭に防腐剤を塗り、打ち込んで元の杭に番線でしっかり結わえつけた。炭は時間をかけてしっかり焼いたため、出来具合が大いに期待されたが、残念ながら焼成が進みすぎ、製炭率は3割弱ながら質はそこそこの出来。窯から取り出し、大きなものは手頃な大きさに割って小袋詰めにした。70袋あった。

先月来、活動に参加の新人2名、正会員として活動に参加との表明あり、今後の活躍が大いに期待される。



炭窯内部



柵の補修



炭の袋詰め



ベンチの組み立て

5月28日(水) 環境出前講座 鼓阪北バンビーホーム(学童保育所)

昨年に続き、クラブ員5名が、森林環境教育と木エクラフトの指導にあたった。参加者児童21名と先生3名。森林環境教育は、食物連鎖を形成するファクターである①樹木・草②草食動物③肉食動物④高次肉食動物⑤ヒトの絵を貼った紙コップ32個を用意。①を底辺に順次積上げさせピラミッドを作り、①のコップを一つずつ外していくと、上にあるものが順に落ちていき、最後は頂点にあるヒトまで落ちてしまう。植物が環境破壊の影響を受けると人にまで影響が出てくることを解かりやすく説明。身の回りの環境を大事する必要性を理解させた。木エクラフトは①モクマルくんづくり・・・種々のサイズの木の輪切りを組み合わせ、パンダをはじめ、動物の顔や思い思いの立体構造物を作った。②モクくんづくりーサクラの小枝で作った見本を見ながら、鉛筆削り器で先を尖らしサルやエンピツを作った。中には一本の枝で両方を作る子もいた。



紙コップを積み上げる



製作中



作品の数々

6月1日(日) 2014虫祭り 橿原市昆虫館

本イベントに協賛されている中部農林振興事務所からの要請を受け、当クラブより4名がクラフト指導で参加した。クラフトは①小枝・竹・木の実を組み合わせでの昆虫づくりと②竹でのジージーゼミづくりを行った。昨年本イベントがTVで紹介されたこともあってか、朝から終了間際まで来館者は後を絶たず1000名を超えた模様。当コーナーである「森の学校」に立寄った子供達は、まず同事務所で用意された森林環境クイズにパネルを参考に回答・採点の後、我々が待つ工作台で思い思いの作品を作ったり、ジージーゼミを作り、早速振り回し鳴き声を楽しんでいた。



開場を待つ



クイズに挑戦



製作風景



6月14日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

参加者 23 名。午前中、大半は野鳥の森植栽地での下草刈り、と他は FV 連緑の募金公募事業の間伐材を利用してのベンチづくりと椎茸銀行の柵の補修とに分かれた。下草刈りは雑草が高く生い茂る中、まずアクセスを確保のため下刈り器で 2 段刈りしながら進んで行き、後に続く手鎌を持った者が坪刈りをした。柵の補修班は、腐りかけの横木の取付金具を外すのに結構手間取ったため新しく付けられたのは少し。午後補修作業は継続し、他は炭を入れた小袋の保管場所となる炭窯横の倉庫へ移し変えた。

解散後開催の理事会では、林野庁の助成事業である”森林・山村多面的機能発揮対策”交付金の今年度 2 次募集に応募すべく事業内容を検討と、6 月 28 日定例活動にワタミ宅食より 10 数名の参加予定に対し、受入れの為の打合せを行った。最後に会計より、関連任意団体で事業主体であるグリーンボランティアならクラブの 25 年度事業収支(決算期 26 年 5 月)案の報告があり終了。

この日朝礼の際、20 日(金)夜「作業を安全に進める」ための勉強会開催の案内があり、参加者を募った。(勉強会の後、8 月頃福井へ転出の寺道さんの送別をかねた懇親会となる。)

6月18日(水) 自主活動 矢田山遊びの森

12 名が参加。25 年度の「緑の募金」公募事業でまほろば展望台麓で景観を阻害している竹の除伐、ほぼ仕上げの段階にきており伐り取った竹の棚積み整理をする一方大きな枯損木が横たわっているのを玉切り処理を行った。ただ一部目立たぬ所ながら少し竹が残っており、次回もう一度作業をし事業を完了させることにした。



竹の除伐後の整理作業風景

枯損木処理

6月20日(金) 勉強会 西大寺味楽座

参加者 21 名。長年活動された寺道さんが奈良の地を離れられに際し、「作業を安全に進めるにあたって」と題し、同氏の豊富な知識と経験を踏まえて約半時間話して頂いた。特に強調されていたのが”安全に対する意識改革”にて、活動を開始する前の道具・器具の手入れから始まり、作業にあたって基本に立ち返り、安全第一をモットーとする。この後、送別会を兼ねた懇親会。あっという間に予定の時間が過ぎ、最後に女性の皆さんから花束の贈呈の後、同氏の今後の健勝と活躍を祈って、皆で一本締めで締め括り散会。

6月25日(水) 「潤いの森」植栽地下草刈り 日笠町

蒸し暑いこの日、6名と山主さんが参加して”瀬戸内オリーブ基金”で茶畑跡地の植栽地。勢いよく生い茂る萱をはじめ、雑草を刈り払い機で全面刈りの後、植栽木の周りを鎌で刈り取った。最後に傾いているのを杭を打ち、起こしてツルで結わえて終了。午後は近くの里山へ移動し、頂上近くの植栽地での草刈り。ここは急斜面故、安全を期して手鎌での坪刈。一時間半ほどで作業を終了した。



作業風景



山主さんも



木起こし



坪刈り

6月28日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

この日予定されていたワタミ宅食は、空模様が怪しいので参加を取止められ、クラブ員18名の参加で実施。

- ①みんなの森植栽地の刈り払い機を使っての下草刈り、
- ②FV連「緑の募金」公募事業での間伐材を使ってのベンチづくりの研磨仕上げ(頂上展望台周辺に設置予定
- ③上記と同様間伐材利用による椎茸銀行の柵補修の三手に分かれての作業。

朝会での冒頭、FV連「緑の募金」公募事業担当者より、この一年円滑な事業遂行への参加協力に対する謝辞があった。午後、柵の補修の目途が付き、シイタケ原木の矢倉の設置が完了したので、仮伏せしておいた原木を皆で丁寧に運び入れ、本伏せし終了。なお昼休み時、関連団体であるグリーンボランティアならクラブ(事業活動を主体とする任意団体)の25年度の決算が会計担当者より報告があり承認された。ついで過日開催の理事会で話合われた、「緑の募金」公募事業を中心に7月以降の活動予定についての説明があった。



柵の補修



ベンチ仕上げ作業



椎茸銀行矢倉づくり

＝ 訃 報 ＝

石野元和顧問が、7月2日急逝されました。
平成9年にクラブを創設されて以来、永年にわたり
代表として、クラブ発展のため多大のご尽力を頂き、
晩年には顧問として、種々のご指導を賜りました。
ご冥福をお祈りいたします。 令 掌